

令和 7 年度 第 2 回 ビジネス実務学科 FD 報告

日時：2026 年 3 月 2 日(月) 15:00～16:00

担当者：井戸、瀬戸、小原

場所：A135 教室

参加者：藺森、三藤、瀬戸、矢澤、坂上、廣瀬、若月、井戸、小原

<テーマ>

各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPA の分布結果から学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する。また学習成果のその他指標についても評価し査定（アセスメント）する。さらに、授業アンケート結果を踏まえ、3/18(水)実施予定の合同会議でのグループ討議テーマについても検討する。

<内容>

○初めに井戸先生から、2025 年度後期の成績分布について説明があった。

最初に、フィールドごとの平均 GP が示された。今学期、最も平均 GP が低かったのはコース専門科目の 2.18 で、最も高かったのは医療・福祉・こどもフィールドの 2.65 であった。昨年度はコース専門科目の 1.80 からフードフィールドの 2.89 までだったので、フィールド間の差は縮小した。また、今年度前期のデータ（2.00～2.61）と比較しても縮小していた。

次にフィールドごとの成績分布が積み上げ棒グラフで示された。平均 GP の高い医療・福祉・こどもフィールドは S 評価の割合が最も高く、約 3 割を示していた。2 番目に平均 GP の高かったフードフィールドは、S と A の評価で 6 割弱を占めており、S と A の合計の割合では医療・福祉・こどもフィールドより高いことが示された。

上記データが学年ごとにも示されたが、特定のフィールドに対して顕著な傾向が見られることはなく、フィールド間の差も縮小傾向であることが報告された。

続いて、履修者数と平均 GP の散布図が示された。同様のグラフが毎回示されているが、今回は近似曲線の傾きが正の数となった。これまでは、履修者数が少ない方が高い平均 GP を示す傾向が見られたため、近似曲線の傾きは負の数となるが多かったが、今年度は例年と異なる傾向が見られた。

今回を含め、これまでのデータの履修者数は科目単位で計算しているが、少人数教育の効果を確認するという観点ではコマ単位でのデータ検証が必要という意見が出た。今後はコマ単位での集計を検討することとなった。



○次に瀬戸先生から授業評価アンケート分析結果についての説明があり、分析内容について意見交換がなされた。

【2025 年度後期 授業アンケート結果】

1. 全体概要

短大3 学科（幼児教育・美術・ビジネス実務）の1・2 年生を対象に授業アンケートを実施した。全体回答率は 86.9%と高く、総合評価平均は 4.52（前年度後期は 4.57 から微減）と概ね高い評価を維持している。特に、実社会直結型や実習型の授業が学生から高く評価されている。

2. 抽出された課題と学科 FD での意見交換

資料から抽出された課題に対し、学科 FD 内で以下の通り多角的な意見が交わされた。

①0 分学習者の増加に関する解釈

資料では「0 分学習者」が全体で 36.1%にのぼり、増加傾向にあると警告されている。しかし FD において、アンケートの「毎回この授業で平均どれくらいの子習・復習をしたか」という問いかけに対し、「毎回」という言葉があるために、学生が厳格に捉えて（1 回でもしていない日があれば）「0 分」と回答してしまっているのではないかという懸念が示された。

②自由記述の取り扱いについて

報告では ChatGPT を用いて自由記述欄の要約が提示された。これに対して FD では、「自由意見は提出数が少数であるため、全体の意見（総意）と考えるには適切ではない」との指摘を受けた。以下の表は今年度のビジネス実務の自由記述をまとめた結果である。

カテゴリ	内容の詳細	該当するキーワード（推測含む）
ポジティブな意見	実技・体験への満足感	ロープレ、楽しかった、大好き、クリスマス
	スキル向上への実感	タイピング、PowerPoint、I learned、I improved
	実用的な知識の習得	日本のホテル、丁寧な言葉遣い、就職について、敬語の言葉
課題点・苦勞	学習内容の難易度	日商（検定等）むずかしい、言葉遣い（の難しさ）
	言語の壁	英語での記述（日本語での表現が難しい可能性）

3. 合同研修に向けた方針

データ分析の結果、学習時間アンケート結果と成績（GPA）には顕著な相関がないことが判明したため、今後は「学習量」から「学習の質（正しい学び方）」への指導転換が求められることが分かった。また、学生の授業満足度を最も左右するのは「目標の明確化」と「能力向上の実感」であり、形式的なグループワーク等の双方向性ではない。したがって、毎回の授業目標を明確に示し、学生自身が確かな成長を実感できる授業デザインへと基本構造を改善していくことを合同会議の全体方針とする。